

掲示した高札場(制札場)ははっきりしないが、「宝暦七年四月陸奥国伊達郡小神村明細帳」に「当村川俣ヨリ福島通ニ御座候、但し上リハ当村御制札場ヨリ羽田村境迄拾五丁、鶴田村境迄五丁」とあるので春日神社近くの道路に立てたものと推察される。

義民 糸 八・元 蔵・久四郎の墓碑

〔所在地〕 糸 八 川俣町大字鶴沢字雁ヶ作
元 蔵 川俣町大字鶴沢字西ノ内
久四郎 川俣町大字鶴沢字柿ノ窪

○松沢村 糸 八

慶応2年の信達大騒動の首謀者金原田村の八郎と共に、幕末の混乱期に活躍した氏家糸八は、松沢村字雁ヶ作の出身である。剛腹にして義侠心に富んだ糸八は、若くして村役人を勤め、常に農民の側に立って代官所役人と対立し、投獄されることも多かったという。

信達騒動直後の慶応2年8月11日付の「日本廻文之事」と記された糸八の戦争反対(徳川幕府の長州征伐反対を意味する)の全国藩主に宛た廻状は、彼の憂国の熱情あふれる激文として、面目躍如たるものがある。



氏家糸八墓碑

その後明治4年2月川俣近傍に発生した明治新政府反対の騒擾事件に捕えられ、福島の牢舎につながれたが、事件落着と共に許され帰宅の身となった。しかし糸八の出獄を恐れて一服もられ、帰宅途中青木平において絶命し、死体となって帰ったと伝えられている。

糸八の墓は、実家の西方裏山続き大久保村境の峯に一族の墓地と共にある。大きな黒色の墓石の正面に「高德院良孝居士」と筆太に力強く刻まれ、裏面に「明治四年十二月二十四日当村四代目俗名糸八 行年六十七才」として刻まれている。

○松沢村 元 蔵・鶴田村 久四郎

明治維新後の世情不安に引続いて起った2年、3年の凶作と物価高は農民の生活を強度に脅かし、年貢の納入延期を願い出る状態となり、ついには夫食米借、種籾拝借歎願にまで発展し